

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社を取り巻く市場環境は、為替の急激な変動やエネルギー、原材料価格の高騰、資材不足、中国における新型コロナウイルス感染影響等、世界のサプライチェーンにおいて先行き不透明な状況が継続する中で、脱炭素化やデジタル化の加速を背景に、自動車の電動化、省エネ、デジタルインフラ等への設備投資が高水準で推移しました。

当社の第3四半期累計決算は、生産能力増強や部材確保に向けた諸対策等に取り組み、パワエレ、半導体事業をはじめ全部門で対前年増収となり、売上高、営業利益、純利益はともに過去最高を更新することができました。社員の頑張り、お客様やサプライヤー様との相互理解による協力関係、まさに総合力の結果であると考えております。

引き続き、従業員を大切にされた経営、そしてチーム力強化を推し進め、「2023年度中期経営計画」に掲げる売上高1兆円の達成を目指すとともに、「エネルギー・環境事業」を通じて、脱炭素社会やSDGsの発展による安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

株主の皆様とご家族の方々のご安全とご健康を心より祈念し、引き続きご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2023年2月

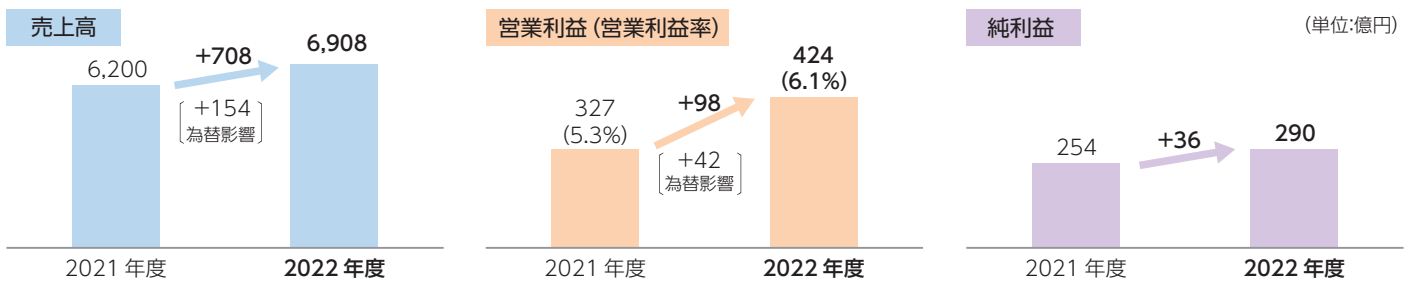
富士電機株式会社
代表取締役会長CEO

北澤通彦



第3 四半期累計決算 (4~12月)

売上高、営業利益、純利益ともに過去最高を更新



売上高は、電動車向け半導体および施設・電源システムの需要増を主因に対前年 708 億円増収の 6,908 億円となりました。営業利益は、原材料価格や動力費の高騰、生産能力増強

投資に伴う固定費増や貸倒引当金計上による悪化影響があったものの、物量・生産の増加に加えて為替の円安影響も寄与し、98 億円増益の 424 億円となりました。

(単位:億円)

セグメント別	2021年度実績		2022年度実績		増減		増減要因
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	
パワエレ エネルギー	1,555	93	1,802	153	246	60	データセンターや半導体メーカ向けの施設・電源システムの需要増および工作機械や半導体製造装置等のセットメーカ向けの器具の需要が拡大し増収増益。
パワエレ インダストリー	2,204	64	2,331	38	128	△25	ITソリューションの文教および民需向けのデジタル化投資等の需要増を主因として増収。オートメーションを中心とした原材料価格高騰や部材調達難による生産影響等により減益。
半導体	1,294	192	1,469	225	174	33	電動車向けの需要増により増収。生産能力増強投資等に伴う固定費増や動力費高騰影響があったものの、高操業による物量・生産増、為替の円安影響等により増益。
発電プラント	443	△11	557	2	113	14	再生可能エネルギーの大口径案件および案件差により増収増益。
食品流通	653	16	684	29	31	13	中国の子会社における貸倒引当金計上による損益悪化影響があったものの、国内飲料メーカ向けの自動販売機の需要増、原価低減の推進等により増収増益。
その他	394	17	432	25	38	8	
消去または全社	△344	△43	△367	△48	△22	△5	
合計	6,200	327	6,908	424	708	98	

(単位:億円)

	2021年度 実績	2022年度 予想(1/26)	増減
売上高	9,102	9,850	748
営業利益	748	870	122
営業利益率	8.2%	8.8%	0.6%
純利益	587	595	8

第4四半期前提為替レートと為替感応度

	USDドル	ユーロ	人民元
前提為替レート	135.0円 /1ドル	135.0円 /1ユーロ	19.5円 /1人民元
為替感応度*	0.3億円	0.4億円	1.2億円

*USDドル/ユーロ:円安に1円変動した場合に営業利益に与える影響。
人民元:円安に1%変動した場合に営業利益に与える影響。

TOPICS

「気候変動Aリスト」に4年連続で選定

気候変動に対する取り組みとその情報開示に優れた企業として、CDP*から4年連続で最高評価の「Aリスト企業」に選定されました。

2022年は世界の株式市場の時価総額の約半分を占める18,700社以上の企業が情報開示を行い、その内283社が気候変動のAリストに選ばれました。

富士電機は、クリーンエネルギー関連設備や省エネルギー機器の提供を通じた社会のCO₂排出量削減への貢献や、生産時の温室効果ガス排出削減の取り組み等、積極的な情報開示が評価されています。



*CDPについて

企業や自治体に、気候変動対策、水資源保護、森林保全等の環境問題対策に関して情報開示を求め、また、それを通じてその対策を促すことを主たる活動としている国際非営利組織。CDPの情報開示システムは環境報告のグローバルスタンダードとなっており、2022年は130兆米ドル以上の資産を持つ680以上の機関投資家がCDPを通じた環境情報の開示を要請しています。

「IR優良企業賞」を初受賞

一般社団法人日本IR協議会が主催する「IR優良企業賞2022」において、「IR優良企業賞」を初受賞しました。

2022年の応募企業344社において、受賞企業はIR優良企業大賞2社、IR優良企業賞6社、IR優良企業特別賞3社、IR優良企業奨励賞2社の13社でした。

富士電機は、経営トップが登場する対話機会や説明会の活発化、事業説明会への高評価に加え、環境に係る取り組みについて自社製品による社会のCO₂排出量削減への貢献や、それが事業戦略の柱であることを説得力を伴って説明していること等が評価されています。

今後も財務情報に加え、E(環境) S(社会) G(ガバナンス)に係る非財務情報の適切かつ分かりやすい開示に努めてまいります。



*日本IR協議会のHPでIR優良企業賞の選定理由の詳細等が紹介されています。

<https://www.jira.or.jp/activity/bluechip.html>

ご報告 株主様向け工場見学会を実施

2022年11月に東京工場と三重工場で開催しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により2019年度以来、実施を見送っておりましたが、3年ぶりの開催となりました。

1,300名以上のご応募の中から、厳正な抽選を行い、当日は計107名にご参加いただき、当社に対する理解を深めていただくとともに、多くの満足の声を頂戴しました。

今後も当社をより一層ご理解いただく機会として、継続して実施していきます。



工場やプラントの設備を制御する機器を紹介(東京工場)



超省エネを実現する最新型自動販売機の機構等を紹介(三重工場)

「親会社株主に帰属する当期純利益」は、本報告書においては「純利益」と表記しております。

本報告書の将来についての戦略等に関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。